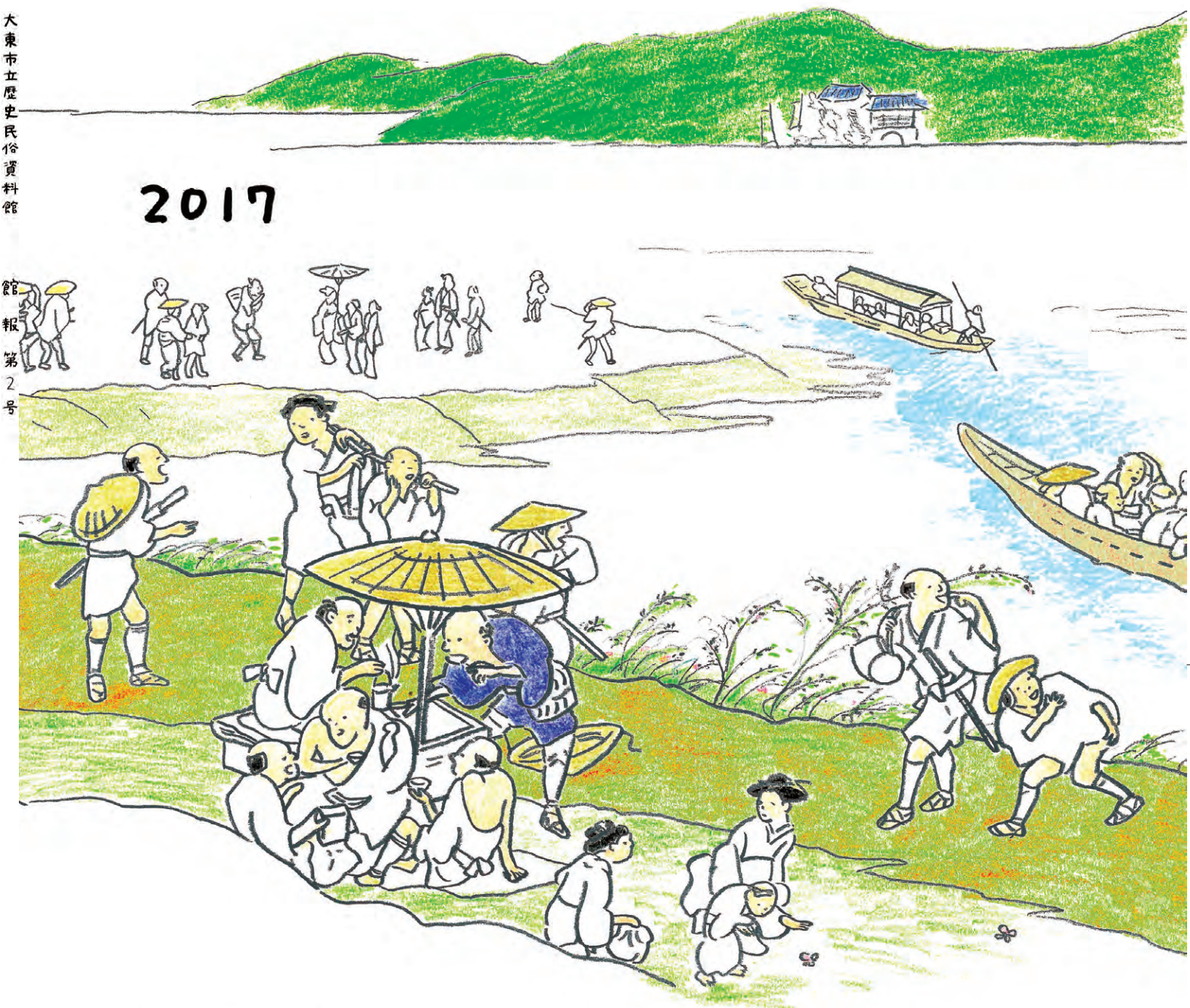




大東市立歴史民俗資料館

2017

館報
第2号



大東市立歴史民俗資料館

館報 第2号

2017

大東市立歴史民俗資料館 館報 第2号
発行日 平成30年(2018)6月1日 発行
編集 大東市立歴史民俗資料館
(指定管理者：株式会社アステム)
〒574-0015 大阪府大東市野崎3-6-1
印刷 株式会社アステム

みんながつながる楽しくひらかれた資料館。

私たちは大東市立歴史民俗資料館を運営していくにあたり、このような資料館を目指していくことをミッションといたしました。「みんな」のなかには、来館者、市民の方、地域の方、地元企業の方、そして私たち学芸員・職員や市民学芸員といった「人」はもちろんのこと、収蔵資料である「モノ」やそのモノにまつわる「情報」も含まれています。「人」と「人」、「人」と「モノ」、あるいは「人」と「情報」をつなぎ、誰もが「モノ」や「情報」にアクセス可能で「ひらかれた」資料館を目指します。

こうして文章にまとめてしまうと、総花的でこのミュージアムにもあてはまるミッションのように映ります。しかし、来館者とは誰なのか、来館しない／できない市民へはどうしたらよいのか、つなぐためには何をすべきなのか、明文化していくために具体的な議論を重ねてきました。これまでもひとりひとりには資料館は「こうあるべき」「こうしたい」があったと思います。何となく共有されていた方向性を、組織として発展していくために、言語化し、組織の言葉として紡ぎ直しました。

これからつくる「みんながつながる楽しくひらかれた資料館」。

まだまだ組織として未熟なところが多々あるかと存じますが、より多くの方のために存在する資料館となるよう、来館者、市民の方、地域の方、地元企業の方、ご同業の方、さまざまなお立場から叱咤激励の言葉をいただければ幸いです。

2018.6.1 大東市立歴史民俗資料館
館 長 たけい ふたば



大東市立歴史民俗資料館 職員（平成 30 年 3 月 31 日現在）

名 誉 館 長 笠井 敏光
専門は、考古学・文化政策学。市民を主体とする考古学、市民大学や市民学芸員システムの構築とともに、文化プロデューサーとして各地の文化を活かしたまちづくりに関わる。また日韓の市民国際交流ネットワークにも参加している。

館長・エデュケーター 武井 二葉
奈良大学にて美術史を学んだのち、博物館・美術館教育を専攻、博物館・美術館にて実践を重ねる。2009 年より大東市立歴史民俗資料館学芸員として勤務。その他、大阪経済大学非常勤講師（『博物館情報メディア論・展示論』）など。

副 館 長 大畑 博嗣
大谷大学真宗総合研究所 研究補助員、大谷大学研修員を経て、2012 年 4 月より現職。中世界における仏教教団史が主たる研究テーマだが、明治期の真宗寺院再建史や近代の真宗大谷派学事史に関する論文も執筆。資料館では文献史料を担当。

学 芸 員 河島 明子
大阪教育大学、同大学大学院で西洋美術史を専攻。博物館実習をきっかけに博物館教育に関心を持ち、総合研究大学院大学研究生として展示学を学ぶ。明石市立文化博物館、国立民族学博物館、枚方市役所を経て 2016 年 9 月より現職。スクールプログラム（団体見学や出張授業等）を担当。

学 芸 員 甲斐 規予子
京都造形芸術大学歴史遺産学科・文化財保存修復コースを専攻。卒業後は、国立民族学博物館で収蔵庫や標本資料の管理を勤めた。2016 年 9 月から資料館に在職。民俗資料収蔵庫の収蔵展示に、市民学芸員と共に取り組んでいる。

職 員 森井 綾乃
2017 年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了。2014 年 8 月より勤務。主に展示や広報物の制作・デザイン、染織ワークショップなどを担当している。

大東市立歴史民俗資料館市民学芸員（平成 30 年 3 月 31 日現在）

浅野 純郎、安達 昌代、石田 薫、磯脇 清美、磯脇 晃一、伊藤 忠男、伊藤 幸美、上野 繁、氏原 稔夫、大藺 美貴子、大藪 庸子、岡島 怜子、柿木 薫、加茂 伸子、北野 武司、栗山 登志子、黒川 喜和子、梶原 妙子、小泊 繁美、柴田 俊雄、竹元 智子、田里 孝子、為則 照子、為則 泰明、富増 由起子、中下 志津子、中西 昭治、中村 義之、西川 瑞代、野村 智恵美、服部 悦子、林田 恵子、檜垣 一美、平尾 和久、平尾 寿美子、広田 美和、前田 喜久子、前田 幸子、松田 薫、水永 八十生、森本 長茂、安川 和恵、和久田 隆夫、西本 明子、松下 茂子、金澤 涼子、金澤 涼夏



目 次

ごあいさつ

I 館報	II 研究報告
1 資料館事業報告	・大東市立歴史民俗資料館における民俗資料分類の試み<甲斐規予子> 30－33
（1） 展示・関連事業 6－10	
（2） 学芸員体験講座 11	
（3） 講師派遣事業 12－16	・展覧会「なつかしくあたらしい ちょっとむかし
（4） その他の事業 17－18	のくらし」の制作と実施<河島明子> 34－42
（5） スクールプログラム 19	
（6） 月別入館者数 20	・【史料紹介】龍間・経寺地区のだんじり関係文書について<大畑博嗣> (1)－(3)
2 市民学芸員事業報告	
（1）例会・連絡会会議 22	
（2）市民学芸員提案事業 23－25	
（3）何かし隊・学芸員提案事業 26－27	

| 館報

1 資料館事業報告



たうえじょうぎ
苗を田に植える
まっすぐ植える

展示・展示関連事業



春季展 観音さんへの散歩道 —野崎まいりをめぐる物語—

【日 時】平成 29 年 3 月 19 日（日）～6 月 4 日（日）
 【参加者数】1138 名（期間中入館者数）
 【担 当】三樹友梨香、大畑博嗣
 【内 容】メインテーマは、野崎まいりをめぐる物語。野崎駅から野崎観音までの参道に見立てた展示室で、野崎観音とともに過ごしてきた地元の人々が語る物語、そして落語や文楽の題材として全国的に広く親しまれている物語など、野崎観音にまつわる様々な物語を紹介。

展示関連事業 野崎まいりをめぐる物語 —落語と現地案内—

【日 時】平成 29 年 3 月 20 日（月・祝） 13:00 - 16:00
 【参加者数】33 名
 【講 師】桂出丸さん（落語家）、笠井敏光
 【内 容】桂出丸さんによる落語「野崎詣り」に加えて、学芸員による落語解説、野崎観音の現地解説を行った。
 ※平成 28 年度末実施事業



展示・展示関連事業



企画展 れきみん食堂 —うつわの中の文化史—

【日 時】平成 29 年 7 月 1 日（土）～9 月 3 日（日）
 【参加者数】1621 名（期間中入館者数）
 【担 当】武井二葉、大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子、森井綾乃
 【内 容】古代から現代にいたるまでの食にまつわる文化や歴史を紹介。煮炊きに使用した土器などの考古資料、重箱や弁当箱といった民俗資料、地域の植生の食用利用、食にまつわる文献史料を展示。

展示関連事業 ランチョンマットを染めよう！

【日 時】平成 29 年 7 月 16 日 / 8 月 13 日 / 8 月 27 日（日）
 13:00 - 14:30
 【参加者数】58 名（延べ人数）
 【担 当】森井綾乃
 【内 容】板締めや絞りといった技法で、ランチョンマットを藍染で染めた。

展示関連事業 つつんであそんでオリジナルおべんとう風呂敷づくり

【日 時】平成 29 年 7 月 23 日 / 8 月 6 日 / 8 月 20 日（日）
 10:00 - 11:00
 【参加者数】36 名（延べ人数）
 【担 当】河島明子
 【内 容】「弁当」についての展示解説を行ったのち、思い出の弁当をテーマに風呂敷にスタンプで模様をつけた。

展示関連事業 食品サンプル制作体験「おすしをつくろう！」

【日 時】平成 29 年 7 月 30 日（日） 13:00 - 14:00
 【参加者数】34 名
 【担 当】株式会社デザインポケット
 【内 容】食品サンプルの歴史についての講義があったのち、寿司の食品サンプルを制作した。

展示・展示関連事業



文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業 TATSUMA ーくらしとまつりー

【日 時】平成 29 年 10 月 1 日（日）～ 12 月 3 日（日）

【参加者数】1148 名（期間中入館者数）

【担 当】武井二葉、大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子、森井綾乃

【内 容】平成 27 年に解体された龍間（経寺）地区のだんじりの彫物、幕、古文書といった関連資料を展示。また石工道具や氷づくりという龍間の産業についても紹介。

展示関連事業 現地見学会ー龍の尻尾をおいかけてー

【日 時】平成 29 年 11 月 7 日（火） 14:00 － 17:00

【参加者数】20 名

【担 当】武井二葉、大畑博嗣

【内 容】展示で紹介した龍間の歴史や文化財を中心に、現地を案内。



展示関連事業 ミニだんじりをつくろう！かざろう！はしらせよう！

【日 時】平成 29 年 11 月 19 日（日）

① 10:30 － 12:00 ② 13:30 － 15:00

【参加者数】8 名（延べ人数）

【担 当】河島明子

【内 容】展示室で彫物や幕を紹介したのち、牛乳パックを利用してミニチュアダんじりをつくった。



展示・展示関連事業



冬季展 なつかしく、あたらしい ちよっとむかしのくらし

【日 時】平成 30 年 1 月 14 日（日）～ 3 月 4 日（日）

【参加者数】1343 名（期間中入館者数）

【担 当】河島明子、市民学芸員

【内 容】家のなかでつかう道具の移り変わりをテーマとして展示。現代になり見直された懐かしい道具やむかしのくらしの「あたらしさ」を紹介。

展示関連事業 れきみんカーニバル with 小さいこネット

【日 時】平成 30 年 2 月 17 日（土） 13:30 － 16:00

【参加者数】131 名（延べ人数）

【講 師】市民学芸員、篠山チルドレンズミュージアム、童話とおもちゃのミュージアムわらべ館、きしわだ自然史資料館、高槻市立自然博物館、咲くやこの花館、八尾市立しおんじやま古墳学習館、大阪府立弥生文化博物館。 PL：河島明子



展示・展示関連事業



春季展 文化財指定記念 野崎観音の信仰

【日 時】平成 30 年 3 月 17 日（土）～ 5 月 27 日（日）
 【参加者数】一名
 【担 当】大畑博嗣、森井綾乃
 【内 容】慈眼寺の本尊である「十一面観音立像」が市の指定文化財に指定されたことを記念した展示。調査成果や仏像の見方についてわかりやすく解説、慈眼寺が所蔵する史料も展示。

展示関連事業

講演会＋見学会「野崎観音を知る・見る」

【日 時】平成 30 年 4 月 15 日（日） 13:00 - 16:00
 【参加者数】一名
 【講 師】吉原忠雄さん（大阪大谷大学非常勤講師）
 大畑博嗣
 【内 容】指定文化財の指定にあたり調査を行った吉原さんより仏像の特徴や味方を解説。その後、展示と現地の案内。
 ※平成 30 年度事業



学芸員体験講座



学芸員体験講座

【日 時】平成 29 年 4 月 22 日 / 5 月 27 日 / 6 月 24 日 / 7 月 22 日 / 8 月 26 日 / 9 月 30 日 / 10 月 28 日 / 12 月 16 日 / 1 月 27 日 / 2 月 24 日 / 3 月 24 日（土） 14:00 - 16:30
 【参加者数】194 名（延べ人数）
 【担 当】岡村喜史さん（大東市市史編纂委員）、笠井敏光、武井二葉、大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子
 【内 容】第 1 回 ガイダンス・大東の歴史
 第 2 回 美術資料の見方・調べ方
 第 3 回 文献資料の見方・調べ方
 第 4 回 企画展レクチャー
 第 5 回 考古資料の見方・調べ方
 第 6 回 展示のプロセスと方法
 第 7 回 外部講師による講座
 第 8 回 近隣の博物館見学
 第 9 回 民俗資料の見方・調べ方
 第 10 回 レファレンス
 第 11 回 市内文化財見学
 第 12 回 まとめ



講師派遣事業



大阪産業大学工学部 教養科目講義「大阪産業大学と社会」

【日 時】平成 29 年 5 月 2 日（土） 10:40 － 12:10

【参加者数】151 名

【担 当】大畑博嗣

【内 容】大阪産業大学からの依頼を受けて実施。工学部 1 回生の一般教養科目として、「大東の歴史と名所・旧跡」についての講義を行った。



大東市立野外活動センター

大東市立歴史民俗資料館の民具を使って！民具×米作り体験

【日 時】平成 29 年 5 月 3 日（水・祝）/5 月 28 日（日）
/6 月 4 日（日）/10 月 9 日（月）/11 月 3 日（金・祝）
/11 月 25 日（土） 10:00 － 15:00

【参加者数】245 名（延べ人数）

【担 当】甲斐規予子

【内 容】第 1 回 苗床づくり&わら細工体験
第 2 回 代掻き
第 3 回 田植え
第 5 回 稲刈り
第 6 回 脱穀
第 7 回 試食

野外活動センターからの依頼を受けて実施。田舟、馬鍬といった所蔵民俗資料を活用した米づくり体験。



近畿民具学会 40 周年記念シンポジウム「民具で未来をひらく」

【日 時】平成 29 年 5 月 21 日（日） 10:40 － 16:40

【参加者数】40 名

【担 当】武井二葉

【内 容】近畿民具学会からの依頼を受け、講師派遣。「市民学芸員と旅するミュージアム～未関心層へのアウトリーチ」というタイトルで、今後行っていく出前事業について説明。

講師派遣事業



公民館 古文書入門講座「郷土の古文書を知る」

【日 時】平成 29 年 6 月 20 日（水）/6 月 27 日（水）
/7 月 4 日（火） 15:00 － 17:00

【参加者数】39 名（延べ人数）

【担 当】大畑博嗣

【内 容】公民館からの依頼を受けて、実施。郷土に関する古文書を読み解く古文書講座。平野屋新田会所に関わる古文書を中心に解説。



阪南大学 博物館資料論

【日 時】平成 29 年 7 月 2 日（日） 10:00 － 16:00

【参加者数】21 名

【担 当】大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子

【内 容】阪南大学からの依頼を受け、実施。博物館資料論を実地で学べるよう館蔵資料を活用し、講義と実習を行った。

大谷大学博物館学課程 博物館実習事前講義

【日 時】平成 29 年 7 月 5 日（水） 16:20 － 17:50

【参加者数】19 名

【担 当】大畑博嗣

【内 容】大谷大学からの依頼を受け、実施。これから博物館実習に臨む学生に対して、資料館の概要や業務内容について講義。

講師派遣事業

大阪国際大学
博物館実習事前実習

【日 時】平成 29 年 7 月 8 日（土） 9:30 － 14:30

【参加者数】6 名

【担 当】武井二葉、大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子

【内 容】大阪国際大学からの依頼を受け、実施。これから博物館実習に臨む学生に対して、収蔵資料を活用して、その取扱いを中心に実習。

シニア観光大学
大東の歴史①・②【日 時】平成 29 年 7 月 20 日 / 10 月 5 日（木）
10:00 － 12:00

【参加者数】46 名（延べ人数）

【担 当】武井二葉

【内 容】シニア観光大学の依頼を受け、大東市の歴史、企画展解説、龍間地区の歴史などについて講義。

篠山チルドレンズミュージアム
つつんで、あそんで、オリジナルおべんとう風呂敷づくり【日 時】平成 29 年 8 月 3 日（木）
11:00 － 12:00/13:30 － 14:30

【参加者数】23 名（延べ人数）

【担 当】河島明子

【内 容】篠山チルドレンズミュージアムからの依頼を受けて、実施。企画展の紹介と資料解説をしたのち、風呂敷に模様をつけた。

講師派遣事業

公民館
古文書サークル【日 時】平成 29 年 8 月 22 日 / 9 月 26 日 / 10 月 24 日
/ 11 月 14 日 / 12 月 12 日 / 平成 30 年 1 月 23 日 / 2 月 27 日 / 3 月 27 日（火） 14:00 － 16:30

【参加者数】46 名（延べ人数）

【担 当】大畑博嗣

【内 容】公民館・古文書サークルからの依頼を受け、実施。古文書講座終了後、参加者より古文書を解説していく講座が立ちあがったため、講師として協力。

大東市産業振興課
第 2 回市内「企業&施設」探検ツアー」

【日 時】平成 29 年 8 月 23 日（水） 13:00 － 16:00

【参加者数】18 名

【担 当】武井二葉

【内 容】大東市産業振興課からの依頼により、「ものづくりの今と昔を学ぼう！」をテーマに明星金属工業株式会社の工場見学と資料館の収蔵庫見学を行った。

京都橘大学
公共施設論

【日 時】平成 29 年 8 月 31 日（木） 10:30 － 12:00

【参加者数】7 名

【担 当】武井二葉

【内 容】京都橘大学からの依頼を受け、実施。施設見学を行ったのち、公共施設の役割と意義について講義。

講師派遣事業



深北緑地公園 レンコン掘り隊

【日 時】平成 29 年 11 月 12 日（日） 10:00 － 12:00

【参加者数】35 名

【担 当】河島明子

【内 容】深北緑地公園からの依頼を受けて、実施。公園内のレンコン畑を用いて、関連する民俗資料を紹介した後、レンコンを掘る体験。

旧南郷村の歴史を考える会 大東の絵馬～「神社探訪・絵馬案内」、その後

【日 時】平成 29 年 11 月 12 日（日） 14:00 － 16:00

【参加者数】26 名

【担 当】武井二葉

【内 容】平成 22 年度特別展「神社探訪・絵馬案内」をきっかけに行った「絵馬」の調査の成果を報告。大東市の特徴だった絵馬や、ガラス絵馬について説明。

その他事業



進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 きいて、さわって、ちょっとむかしのくらしとまつり

【日 時】平成 29 年 8 月 7 日（月） 13:30 － 14:30

【参加者数】16 名

【担 当】武井二葉

【内 容】有料老人ホームにて「ちょっとむかしのくらしとまつり」をテーマに出張展示(8月7日－8月18日)を実施。また、展示解説を実施した。



進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 だんじりを活用した文化財の鑑賞授業

【日 時】平成 29 年 10 月 19 日（木） 8:30 － 13:00

【参加者数】145 名

【担 当】武井二葉、河島明子

【内 容】近隣に文化財に乏しい地域における、だんじりを素材にした授業を検討。神戸市立鹿の子台小学校において、鑑賞を中心とした授業を実施。



進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 介助犬のひろば

【日 時】平成 29 年 12 月 3 日（日） 10:00 － 17:00

【参加者数】200 名（期間中入館者数）

【担 当】武井二葉、河島明子

【内 容】介助犬の普及啓発イベントにおいて、出前講座を実施。聴覚障がい者に対して、だんじりのお囃子を抱っこスピーカーなどを用いて体感できるよう展示。

その他事業



こども染織実験教室

【日 時】平成29年9月17日/10月22日/11月26日
/12月24日/平成30年1月28日(日) 13:00 - 14:30

【参加者数】29名 (延べ人数)

【担 当】森井綾乃

【内 容】紅花・藍などの植物染料による染色体験や簡易な機織り体験など子どもを対象とした染織教室。



第9回小さいとこサミット IN 大東

小さいからできる！ミュージアムと"じゃないとこ＝異業種"との連携

【日 時】平成30年2月16日(金) 10:00 - 12:00
2月17日(土) 13:00 - 17:30

【参加者数】131名(2日間合計)

【担 当】河島明子

【内 容】小規模博物館が抱える課題や悩みを共有するために組織された「小規模ミュージアムネットワーク」。同会が年1回主催するサミットの開催館となり、異業種との連携をテーマに交流をはかった。

スクールプログラム

市内小学校

団体見学利用実績

日 時	学 校 名	学 年	人 数
1月18日(月)	北条北小学校	3年生	82名
1月25日(火)	三箇小学校	3年生	85名
1月26日(水)	深野小学校	3年生	85名
2月2日(木)	南郷小学校	3年生	96名
2月7日(金)	四條畷学園小学校	3年生	55名
2月19日(土)	住道北小学校	3年生	60名
2月22日(日)	四條畷学園小学校	3年生	32名
合計6校			495名



小学校講師派遣事業

日 時	学 校 名	学 年	担 当	内 容	人 数
10月4日(水)	住道南小学校	3年生	河島明子、武井二葉	洗濯板体験	77名
10月6日(金)	住道南小学校	3年生	河島明子	昔の写真・昔の暮らし	77名
1月11日(木)	氷野小学校	1年生	河島明子、森井綾乃	糸車体験	104名
1月15日(月)	灰塚小学校	1年生	河島明子、森井綾乃	糸車体験	96名
1月22日(月)	北条小学校	1年生	武井二葉、森井綾乃	糸車体験	53名
1月29日(月)	氷野小学校	3年生	河島明子、大畑博嗣	昔の写真・昔の暮らし	113名
2月8日(月)	寝屋川市立桜小学校	1年生	河島明子、甲斐規予子	糸車体験	68名
2月13日(火)	四条小学校	1年生	武井二葉、甲斐規予子	糸車体験	84名
3月8日(木)	住道北小学校	3年生	河島明子、武井二葉	洗濯板体験	60名
洗濯板2校、昔の写真・暮らし2校、糸車5校 合計9校					732名



月別入館者数

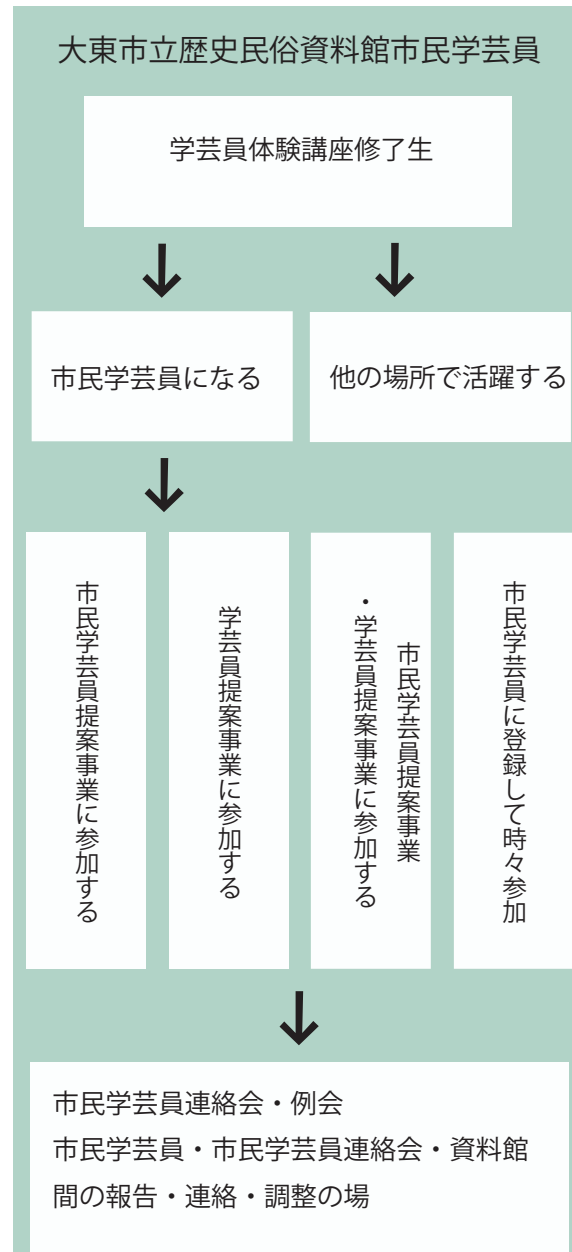
月	開館 日数	一般来館者数			団体来館者数			事業 参加者数	来館者数 合計
		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
4月	28	257	129	386	0	0	0	98	484
5月	29	276	129	405	11	4	15	345	765
6月	28	216	132	348	99	0	99	157	604
7月	29	396	388	784	44	0	44	252	1080
8月	29	305	316	621	11	74	85	228	934
9月	28	207	109	316	0	0	0	122	438
10月	29	280	119	399	53	0	53	461	913
11月	28	342	139	481	114	0	114	250	845
12月	26	218	100	318	16	0	16	290	624
1月	27	280	175	455	21	239	260	473	1188
2月	26	248	170	418	14	229	243	759	1420
3月	29	322	143	465	18	0	18	149	632
合計	336	3347	2049	5396	401	546	947	3584	9927

1 館報

2 市民学芸員事業報告



例会・連絡会会議



市民学芸員連絡会会議

【日 時】平成 29 年 6 月 10 日 / 7 月 8 日 / 8 月 12 日 / 9 月 9 日 / 10 月 14 日 / 11 月 11 日 / 12 月 9 日 / 平成 30 年 1 月 13 日 / 2 月 10 日 / 3 月 10 日（土） 13:00 - 14:00

【出席者】武井二葉、大畑博嗣、河島明子、甲斐規予子、市民学芸員事業提案者

【内 容】市民学芸員例会に際し、事前に報告や連絡を行う調整会議。

市民学芸員例会

【日 時】平成 29 年 4 月 8 日 / 5 月 13 日 / 6 月 10 日 / 7 月 8 日 / 8 月 12 日 / 9 月 9 日 / 10 月 14 日 / 11 月 11 日 / 12 月 9 日 / 平成 30 年 1 月 13 日 / 2 月 10 日 / 3 月 10 日（土） 14:00 - 16:00

【参加者数】218 名（延べ人数）

【登録者数】47 名

【内 容】市民学芸員連絡会、市民学芸員提案事業、学芸員提案事業、資料館からそれぞれ報告や連絡事項を報告。

市民学芸員見学会
富田林寺内町

【日 時】平成 30 年 2 月 15 日（木） 14:00 - 16:00

【参加者数】18 名

【内 容】市民学芸員が企画をし、富田林寺内町での見学会を実施。興正寺別院をはじめ、ボランティアガイドの案内で寺内町を見学。

市民学芸員提案事業



(1) 龍間 称迎寺にて平成 29 年 9 月



(2) レポート集

大東市の石造物と民話調査チーム

【日 時】平成 29 年 6 月 10 日 / 7 月 8 日 / 8 月 12 日 / 9 月 9 日 / 10 月 14 日 / 11 月 11 日 / 12 月 9 日 / 平成 30 年 1 月 13 日 / 2 月 10 日 / 3 月 10 日（土） 14:00 - 16:00

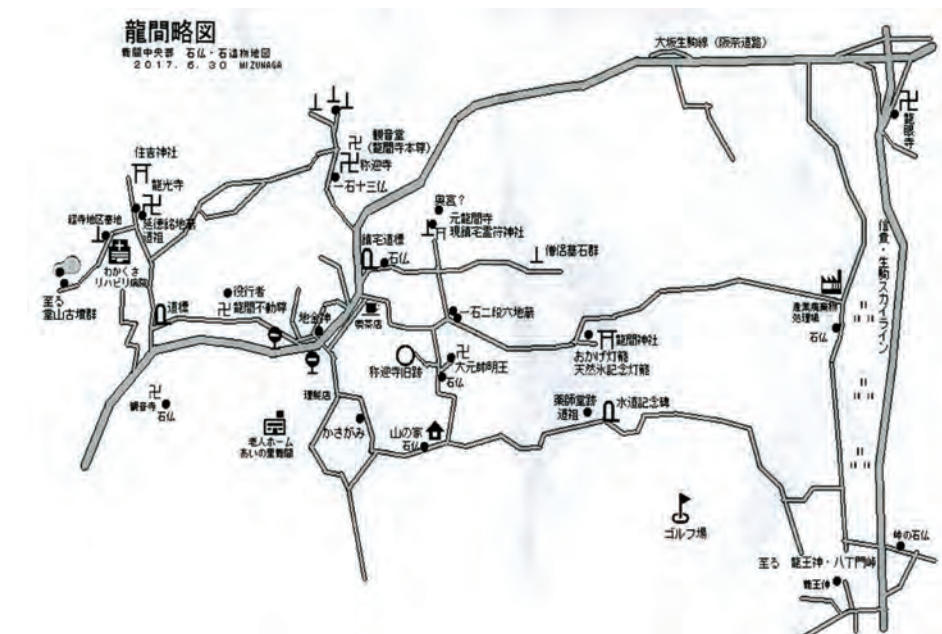
【登録者】安達昌代・上野繁・岡島怜子・黒川喜和子・加茂伸子・栗山登志子・田里孝子・中下志津子・中村義之・林田恵子・水永八十生

【内 容】私たち石造物チームは、当初「民間信仰の石造物チーム」として発足した。

その後、「野崎観音石造物調査チーム」として、野崎観音の境内などにある石造物を調査した。さらに平成二十九年度において大東市の民話を加え、それぞれ自分なりに調べたレポートや資料を持ちより話し合ったのを『大東の石造物と新むかしばなし』として一冊のレポート集にした。その過程で、他の市民学芸員提案事業チームのメンバーからもレポートが寄せられ、それを加えて以下のような内容にまとめた。

- 一．野崎観音の石造物
- 二．野崎観音に関する話
- 三．大東市の歴史を語る
- 四．資料―野崎観音の石造物一覧・年表―

また、平成二十九年度は、資料館の「TATSUMAーくらしとまつりー」展に合わせて私たちチームも龍地区の石造物調査を加えた。龍間地区は山間地の古間くからの村で、山岳修験や多様な民間信仰の痕跡がいも残っている特徴ある地域であり、チームでの調査ま活動を少しずつ進めている。



市民学芸員提案事業



収蔵庫チーム

【日 時】平成 29 年 6 月 10 日 / 7 月 8 日 / 8 月 12 日 / 9 月 9 日 / 10 月 14 日 / 11 月 11 日 / 12 月 9 日 / 平成 30 年 1 月 13 日 / 2 月 10 日 / 3 月 10 日（土）

14:00 – 16:00

【登 録 者】氏原稔夫・檜垣一美・竹元智子・氏原稔夫・石田薫・松田薫・桑原妙子・西川瑞代・柴田俊雄・為則照子・為則泰明・金澤涼子・金澤涼夏・富増由起子・浅野純郎

【内 容】 2016 年 12 月に資料の調査が終了し、2017 年 1 月以降は調査票のデジタル化をする動きとなりました。Excel での目録作成は、2017 年 4 月に入力を終わらせる事ができました。その後、調査票のスキャンニングをする予定でしたが、調査票を入力中に調査する人によって解釈が異なる記述が次々と発覚し、スキャンニングは一旦保留。先に、調査したものを館の資料として整理をすることになりました。

今にも破れそうな段ボールに、ごそっと入っている資料を整理し、収蔵庫に保管できるようにしたいのですが、収蔵・保管する知識が無いので、学芸員の甲斐さんに一から教わらなくては何も出来ない状態です。中性紙の存在、ボールペンではなく、えんぴつでの記入、薄葉紙での包み方など、資料を大切に保管する方法を知るのは、とても興味深いものです。

収蔵庫チームの作業は、同じような作業をコツコツとしていく地味な作業ですが、今後、資料を活用させるには大切な作業です。調査票を作る作業をしている時は、果てしなく続いていくのではないかという不安もありましたが、終わらせることができました。保管整理していく作業も始めたばかりで、先を考えるとため息が出そうになりますが、地道にコツコツと作業を続けていきたいと思っています。



市民学芸員提案事業



祭りの衣装・祭りの小道具

【日 時】平成 29 年 6 月 10 日 / 7 月 8 日 / 8 月 12 日 / 9 月 9 日 / 10 月 14 日 / 11 月 11 日 / 12 月 9 日 / 平成 30 年 1 月 13 日 / 2 月 10 日 / 3 月 10 日（土）

14:00 – 16:00

【登 録 者】前田喜久子・小泊繁美・柿木薫・広田美和・西本明子・松下茂子

【内 容】 秋祭りに曳行するだんじりについて、曳き手の衣装や小道具を調べる。調査票を作成し、各地区ごとの秋祭りで調査を行う。

祭りの衣装・祭りの小道具

調査地区	いつ 現在 / 昔（ ）年頃	語り手・年齢 （ 歳）	調査者 調査日 年 月 日
------	----------------------	--------------------	-------------------------

この衣装を着るのは、誰？

・地車の 屋根の上・前上・後ろ上・下・その他（ ）

・団体（ ） ・役職や係（ ）

・年齢（ ） ・性別（ ）

・デザインについて（誰が、いつ頃、意味）、その他

小道具①	小道具②
・名称（ ）	・名称（ ）
・持つ人（ ）	・持つ人（ ）
・手で持つ・その他（ ）	・手で持つ・その他（ ）

何かし隊・学芸員提案事業

何かし隊
企画展関連事業準備会

【日 時】平成 29 年 7 月 19 日（水） 14:00 － 16:00
平成 29 年 11 月 6 日（月） 10:00 － 12:00

【参加者数】7 名（延べ人数）

【担 当】河島明子

【内 容】企画展関連事業「つつんで、あそんでオリジナルおべんとう風呂敷づくり」及び「ミニだんじりをつくろう！かざろう！はしらせよう！」に際し、試作や道具の準備を行った。

何かし隊
殺虫処理講習

【日 時】平成 29 年 9 月 2 日（土） 14:00 － 16:00

【参加者数】12 名

【講 師】魚島純一さん（奈良大学文学部文化財学科教授）

【内 容】虫害を受けていただんじりの幕に二酸化炭素を用いた殺虫処理を施す様子を実演した。あわせて文化財の生物被害防除について講義。

何かし隊
野外活動センター米づくり事業草抜き

【日 時】平成 29 年 9 月 3 日（日） 9:00 － 12:00

【参加者数】6 名

【講 師】甲斐規予子

【内 容】大東市立野外活動センターで実施している米づくり事業のため、畑の整地や草抜きを実施した。

何かし隊・学芸員提案事業

学芸員提案事業
道具とくらし調べ隊

【日 時】平成 29 年 4 月 15 日 / 5 月 20 日 / 6 月 17 日 / 7 月 15 日 / 8 月 19 日 / 9 月 16 日 / 10 月 21 日 / 11 月 18 日 / 12 月 16 日 / 平成 30 年 1 月 14 日 / 3 月 17 日（土）

13:30 － 15:30

【参加者数】71 名（延べ人数）

【担 当】河島明子

【内 容】「ちょっとむかしのくらし」展に向けて、収蔵資料を調査し、展示する。特に「鍋と釜」をテーマとして、資料調査を行った。

学芸員提案事業
だんじり整理隊

【日 時】平成 29 年 4 月 9 日（土） / 5 月 14 日 / 6 月 11 日 / 7 月 10 日（月） / 8 月 13 日 / 9 月 10 日 / 10 月 8 日 / 11 月 12 日 / 12 月 10 日 / 平成 30 年 1 月 14 日 / 2 月 11 日 / 3 月 11 日 ※特記なき場合、日曜日 原則 14:00 － 16:00

【参加者数】132 名（延べ人数）

【担 当】甲斐規予子

【内 容】他館の収蔵庫を視察し、近年収蔵されただんじり関連資料の保管、保存方法を検討。資料の情報はデジタルアーカイブ化され、実物は収蔵棚に保管するにいたった。

学芸員提案事業
古文書探し隊

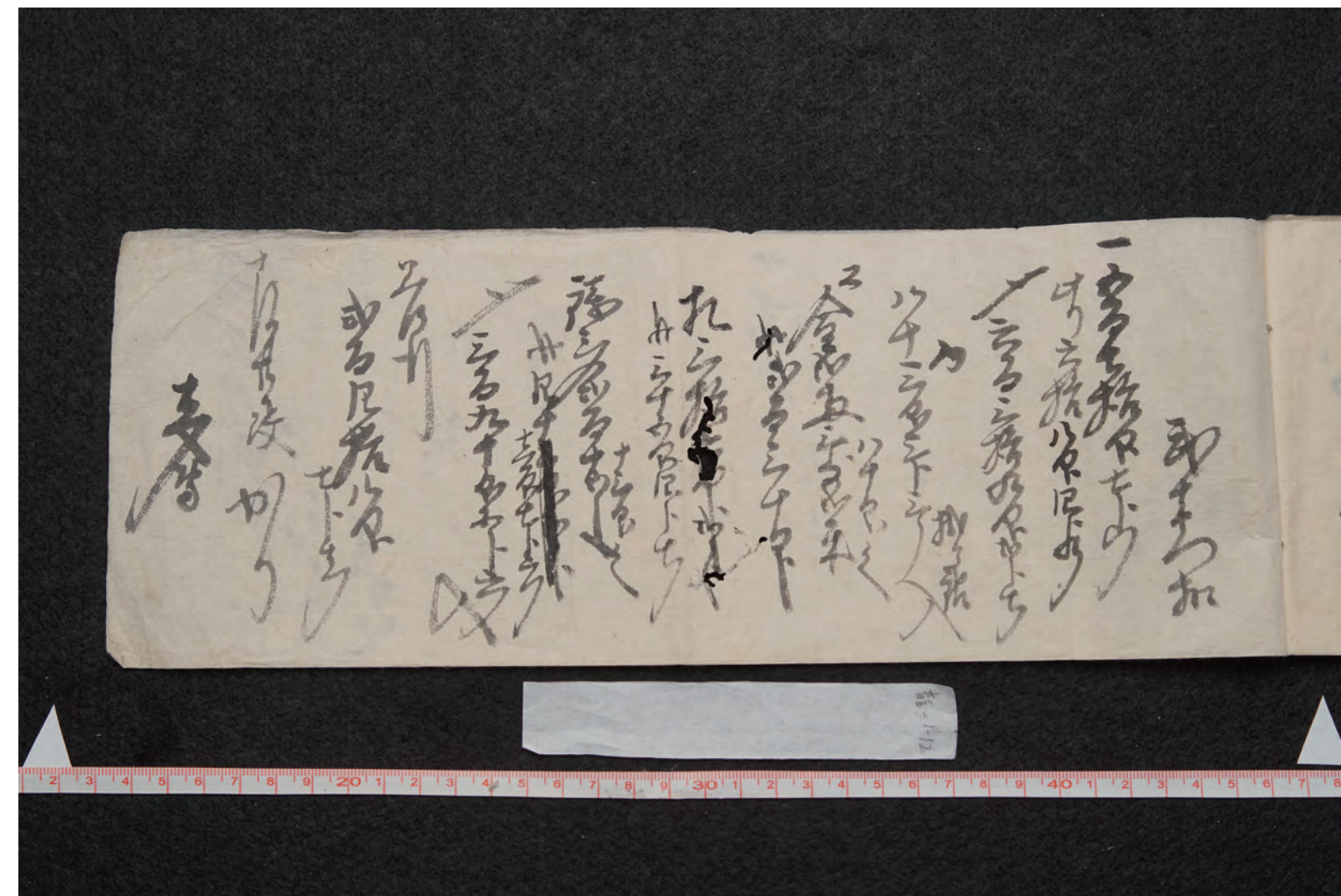
【日 時】平成 29 年 4 月 12 日 / 4 月 26 日 / 5 月 10 日 / 5 月 24 日 / 6 月 14 日 / 6 月 28 日 / 7 月 12 日 / 7 月 26 日 / 8 月 9 日 / 8 月 23 日 / 9 月 13 日 / 9 月 27 日 / 10 月 11 日 / 10 月 25 日 / 11 月 8 日 / 22 日 / 12 月 13 日 / 12 月 27 日 / 平成 30 年 1 月 10 日 / 平成 30 年 1 月 24 日 / 2 月 14 日 / 2 月 28 日 / 3 月 14 日 / 3 月 28 日（水） 14:00 － 16:00

【参加者数】242 名（延べ人数）

【担 当】大畑博嗣

【内 容】龍間経寺地区より預かった古文書について、調査カードの作成、翻刻、計測、撮影、デジタルアーカイブ化という一連の作業と、一部史料の展示をした。

Ⅱ 研究報告



調べる

伝える

蓄積する

大東市立歴史民俗資料館における民俗資料分類の試み

—国立民族学博物館による「日本の文化展示場の資料分類」の地域博物館での応用の事例報告—

甲 斐 規 予 子

はじめに

大東市立歴史民俗資料館（以下、資料館）では、大東市内で収集した民俗資料を所蔵している。資料館への受け入れ処理が完了している資料については、1点ずつ実測図と目録が作成され、台帳管理されているが、資料の一つ一つがどういったカテゴリーに分類され、それぞれのカテゴリーごとにどのくらいの数の資料があるのかは、把握できていなかった。そこで筆者は、所蔵資料の全貌を把握するために、民俗資料の分類を試みることとした。本稿では、今回試みた分類の成果と、そこで生じた問題点について報告する。

1. 資料点数の数え方

分類を進め資料の全貌を把握するにあたり、まずは民俗資料の総数を把握しなければならない。今回、分類対象となった民俗資料は、筆者が数えたところ、総点数が5098点となったが、どのように点数を数えたのか説明する。

資料館に所蔵されている民俗資料は、受け入れ処理が完了した資料についてはそれぞれに資料番号を付しており、この資料番号は、親番号（グループ番号）と枝番号（グループ内のデータ番号）の2階層の構造となっている。親番号（グループ番号）だけを見ると3335までの番号があるが、今回は枝番号（グループ内のデータ番号）を資料1点と数えることとした。枝番号（グループ内のデータ番号）の集計を出すにあたり、Microsoft社の表計算ソフトであるExcelで作成された収蔵品台帳⁽¹⁾のデータを用いることとした。その結果、5098点となったため、この数を所蔵資料の総点数と設定した⁽²⁾。

1-1. 資料番号の問題

資料館における資料番号について説明する。実は、この資料番号のルールは厳密に決まってお

らず、ものによって考え方が変わり、番号の振り方の規則が異なっている。そのため、資料番号の振り方を見直す必要がある。現在、特に問題と思われるのは、以下の3つの事項である。

(1) 親番号と枝番号の使い方が統一されていない
具体的な事例を挙げると、「ダ-1148-1」～「ダ-1148-4」の分銅の場合は、複数の資料が同じものとみなされ、同一の親番号（グループ番号）のもとに、分銅1点ずつが枝番号（グループ内のデータ番号）で処理されている（写真1）。また、羽釜と蓋のように、1点ずつ分けられるものも枝番処理している事例もある。他には、箱入りの資料の場合、箱とその中身を分けて枝番処理している事例が見受けられた。ここに挙げていないパターンもあり、資料館における枝番処理は複雑となっている。これは、資料番号を付した担当者が各自の判断で処理し、それを共有しなかったことが原因であると推測した。こういったルールが統一されず、複雑になってしまう問題は、資料整理の担当者の入れ替わりがあった場合や、複数人での整理作業時にはどこでも起こりうる問題である。資料館だけでなく、このような問題で悩みを抱えている民俗系資料館・博物館は多いのではないだろうか。



写真1: 「ダ-1148-1~4」の分銅

(2) 箱などの入れ物に中身が入った資料の扱い

現在の資料番号では、保管用箱に入った膳碗類の資料の場合、箱に親番号（グループ番号）、中身を枝番号（グループ内のデータ番号）で処理している。しかし、用途から考えると中身である、膳碗類の方が主と捉えるべきで、こちらに親番を付す方が正しいという見方もできる。箱に親番を付すメリットとしては、中身との関連性はわかりやすくなるが、元々その箱に入るべきであったものではなく、関係のない別のものが入っている場合、この資料番号は全く意味をなさなくなる問題がある。こちらについても、改めて見直す必要がある。

(3) 民俗資料として一点として数えたい資料の場合はどう処理をするか

雛人形などの場合は、人形や小道具、飾り台まで全てに1点ずつ資料番号を付すべきかどうか、という問題も検討する必要がある。民俗資料の場合、組み合わせてセットになっていることで資料情報を持つものが少なくない。しかし、それらのものが本当にセットとなっていたのかは、寄贈前の情報が無い限り判断が出来ないため、資料の来歴が必要不可欠となる。

これは別の話になるが、今後資料館で構築予定のデジタル・アーカイブ・システム⁽³⁾を運用する上では、全てに番号を付して追跡出来る方が、「資料を管理する」という面では便利である。従来は資料館の学芸員が収集・整理に便利である管理用の資料番号を用いていたが、今後は一つのデジタル・アーカイブ・システム上で、管理用情報と、一般へ公開する情報を振り分けることを想定した上で、どういった資料番号が有用かを考える必要がある。

2. 分類方法について

分類方法については、国立民族学博物館における「日本の文化展示場関連資料の情報公開プロジェクト」の資料分類にならうこととした。この分類方法を選択するに至った経緯を説明すると、2018年3月25日に枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館で開催された、近畿民具学会第260回がきっかけである。この回の議題は、研究会『「日本の文化展示場資料民博分類」と地域博物館での応用の可能性について』という内容であった。従来用いられてきた民具の分類は、調査した上で来歴がしっかりとしていることが大前提であったが、現状は民具の使用者が亡くなっていることで直接聞き書きを出来なくなっていたり、記録が無かったりという問題に直面している。そのため、民具というものの、それ自体について、検討する必要がある。今回は、こうしたことも含め、緩やかにアレンジした民具の用途分類を設定することと、その活用についてをテーマとして議論を行った。民俗資料分類については、柳田國男による分類（1935年）を始め、アチックミュージアムの『民具蒐集調査項目⁽⁴⁾』（1930年）や、文化財保護委員会による民俗資料の分類⁽⁵⁾（1965年）、宮本常一が提唱した「機能分類⁽⁶⁾」（1969年）といった先行研究が主にあげられるが、それぞれの分類は統一されておらず、さらに全国各地にある博物館では各館ごとの規則に基づいた分類を用い、資料整理を進めているのが現状である。そこで、国立民族学博物館の日高真吾氏が発表した「日本の文化展示場の資料分類」を地域博物館で応用し、それぞれの成果をもとに検討を進めてはどうか、という提案があった。この資料分類は、『日本民俗文化財事典⁽⁷⁾』と、『民俗文化財の手引き⁽⁸⁾』に依拠しており、2階層で分類を行う。

まず、大項目については、「1. 衣食住」、「2. 生産・生業」、「3. 交通・運輸・通信」、「4. 交易」、「5. 社

会生活」、「6. 信仰」、「7. 民俗知識」、「8. 民俗芸能」、「9. 競技・遊戯」、「10. 人生儀礼」、「11. 年中行事」の11の項目で構成される。次に、小項目については、「1. 衣食住」を「1－1. 衣」、「1－2. 食」、「1－3. 住」。「2. 生産・生業」を「2－1. 農耕」、「2－2. 山樵」、「2－3. 採集」、「2－4. 漁撈」、「2－5. 狩猟」、「2－6. 畜産」、「2－7. 染織」、「2－8. 手工・諸職」。「3. 交通・運輸・通信」を「3－1. 交通」、「3－2. 運輸」、「3－3. 通信」。「4. 交易」、「5. 社会生活」、「6. 信仰」、「7. 民俗知識」、「8. 民俗芸能」については1項目としている。「9. 競技・遊戯」は「9－1. 競技」、「9－2. 遊戯」。「10. 人生儀礼」は「10－1. 産育」、「10－2. 成人」、「10－3. 婚姻」、「10－4. 年祝い」、「10－5. 喪葬」、「10－6. 弔祭」。「11. 年中行事」は「11－1. 正月行事」、「11－2. 春の行事」、「11－3. 夏の行事」、「11－4. 盆の行事」、「11－5. 秋の行事」、「11－6. 冬の行事」と分けている。

3. 分類の結果

大東市立歴史民俗資料館で所蔵している登録資料総点数は、5098点である（2018年5月時点での資料数）。これらの資料を、筆者が収蔵品台帳上で分類し、表1のように分類表を作成した。以下、この表を参照しながら論を進めたい。この表の総点数が登録資料総点数と数が合わない理由については、ひとつの資料に複数の項目が重複しても可とする、重複的分类法を用いたためである。

表1を見ると、大分類から見た場合、衣食住は1967点、生産・生業が952点、交通・運輸・通信が220点、交易が187点、社会生活が93点、信仰が79点、民俗知識が658点、民俗芸能は6点、競技・遊戯が201点、人生儀礼が16点数えられる。今回の分類では、国立民族学博物館の分類に新たにその他の大分類項目として、「12.

不明」と「13. 戦争」を追加した。これは、武知邦博氏が、枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館での分類を試みた際に、追加していた項目である。分類を進める中で、資料自体の情報が無かったり、部材の一部のみであったりと、用途不明な資料な資料が出てきた際の項目が設定されていないと不便だということで、追加されたものである。また、戦争に関連する資料を、他の資料と同等に分類してしまうと、資料情報が無くなってしまうことを懸念し、「戦争」という項目を追加することを提案された。資料館でもこの2つの項目があると分類作業を進めやすいこともあり、採用することとした。資料点数は戦争が30点、そして不明が692点である。また、資料の内訳数を円グラフで表すと（グラフ1、※不明、戦争の項目は除外している）、最も多かったのは衣食住の43%であり、総点数の約4割を占めていた。これは、碗等の食器類が多かったことによるが、それは1章でふれたように、あくまで収蔵品台帳のエクセル上で集計したことも原因である。碗や皿といった資料は、同じ形の皿などが複数セットとなっている場合が多いため、これを1点ずつ数えていることにより、数量が多くなることは必然ともいえる。次に多いのは生産・生業で、中でも農機具類が571点で、21%と他の生業よりも飛び抜けて多い。これは大東市平野部では、昭和30年代後半まで広大な水田があったことから、農家で使用されてきた稲作・畑作の民具が多く収集されていることに起因するとみた。次に多いのは民俗知識だが、これは学校で用いる教科書類が多数を占めていることによる。

おわりに

今回、民俗資料の分類を試みたことで、資料館の収集した民俗資料の全貌を、大まかではあるが掴むことができた。中でも、衣食住と生産・生

業、そして民俗知識に類する資料が多いこともわかった。しかし、衣食住に関しては、前述したように基本的に数十点もの点数がセットとなっているものを、まとめて1件の資料として数えるのではなく、1点ずつとして計上したため、資料点数が大量になったという背景がある。また、「不明」に分類された資料が692点と、数が大変多いことは問題である。原因としては、資料の一次情報が足りないこともあるが、分類を行った筆者自身が、それぞれの資料がどの分類に属するのかを判断するための知識が不十分な状態で行ったことも大きく、反省すべき点である。今後の課題として、まずは資料の点数を数えるにあたり、資料番号の付け方について、どのような規則の上で目的を明らかにし、統一し再整理する必要がある。その上で、改めて分類の集計をとることによって、より正確な所蔵資料の把握につながることになる。分類項目の設定だけではなく、資料の点数の数え方についても検討し、統一する必要があるとわかった。次に、現在692点もある「不明」資料を明らかにしていくことも、優先的に進める必要がある。そして、資料の持つ多面性に留意し、精度の高い目録を目指し、資料情報の更新を継続していきたい。これらの問題解決には、自館だけではなく、他館の資料整理担当者とも情報を共有し、議論することが必要であるため、今後も積極的に連絡を取り合っていきたい。

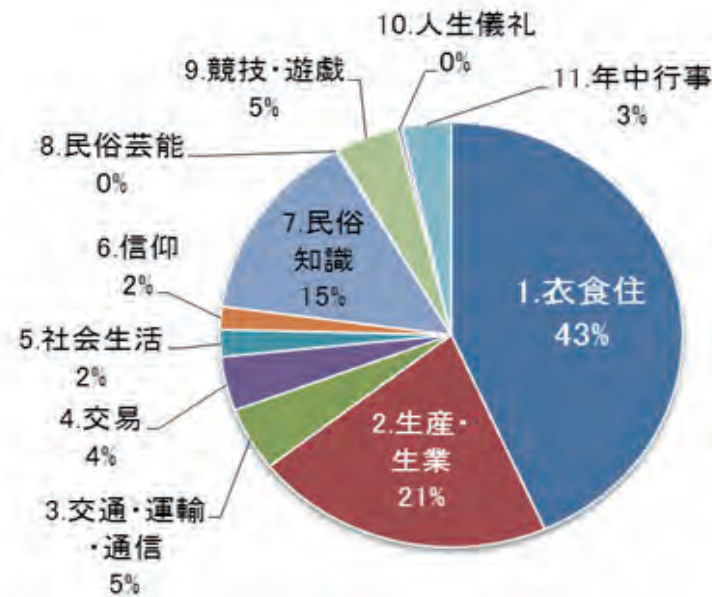
謝辞

本稿を執筆するにあたり、奈良県立民俗博物館の溝邊悠介氏にご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。

表1：民俗資料分類表

大分類	大東市点数	中分類	大東市点数
1. 衣食住	1967	1－1. 衣	298
		1－2. 食	1021
		1－3. 住	648
2. 生産・生業	952	2－1. 農耕	571
		2－2. 山樵	5
		2－3. 採集	0
		2－4. 漁撈	17
		2－5. 狩猟	0
		2－6. 畜産	43
		2－7. 染織	137
		2－8. 手工・諸職	179
3. 交通・運輸・通信	220	3－1. 交通	30
		3－2. 運輸	171
		3－3. 通信	19
4. 交易	187	4－1. 交易	187
5. 社会生活	93	5－1. 社会生活	93
6. 信仰	79	6－1. 信仰	79
7. 民俗知識	658	7－1. 民俗知識	658
8. 民俗芸能	6	8－1. 民俗芸能	6
9. 競技・遊戯	201	9－1. 競技	0
		9－2. 遊戯	201
10. 人生儀礼	16	10－1. 産育	1
		10－2. 成人	0
		10－3. 婚姻	1
		10－4. 年祝い	0
		10－5. 喪葬	12
		10－6. 弔祭	2
11. 年中行事	155	11－1. 正月行事	6
		11－2. 春の行事	149
		11－3. 夏の行事	0
		11－4. 盆の行事	0
		11－5. 秋の行事	0
		11－6. 冬の行事	0
12. 不明	692		
13. 戦争	30		

グラフ 1：分類に基づく資料点数の内訳



(1) 収藏品台帳には、資料番号、収蔵場所、名称、数量、材質、形状(寸法)、採集地、時期、使用・製作年代、修復履歴、寄贈者、寄贈年月日、備考、ラベル(注記)が入力される。

(2) 収藏品台帳の Excel データでは、一つのセルに対して複数の資料情報が統合されているケースがあった。グループ内のデータ番号(枝番)1点に対して、一つのセルが用いられているわけではない。今回はセルの数の集計を、グループ内のデータ番号(枝番)の集計と仮定したが、この数は正しいグループ内のデータ番号(枝番)の集計ではない。

(3) デジタル・アーカイブ・システムの詳細な内容については、藤本悠・堀内保彦(2018)「市民も参加できる低コストで新しいデジタル・アーカイブの方法について」、『進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 平成29年度事業報告書』pp.26-32, 進化系アーカイブと旅するミュージアム実行委員会、を参照されたい。

(4) 民具を「身近卑近な道具」として定義して、生活全般の中で民具の使用される場面ごとに8つに分け、さらに各項に合計33の細項目を設けている。

(5) 文化財保護委員会は「重要民俗資料指定基準」を告示し、有形民俗資料である民具を用途に応じて10の分野に分類した。

(6) 民具はすべて人間の手足によって動かし得るものとして、人間の行動の目的に添って分類するということをも、機能分類と名付けて立案した『民具学の提唱』(未来社、1979年)

(7) 『日本民俗文化財事典』(文化庁文化財保護部監修、1979)

(8) 『民俗文化財の手びき―調査・収集・保存・活用のために』(文化庁内民俗文化財研究会、1979年)

参考文献

(1) 2016. 日高真吾「国立民族学博物館「日本の文化展示場」の展示資料をデータベース化する試み」『近畿民具学会年報』第40輯 P40-50 2018年2月28日 近畿民具学会

(2) 日本の文化展示関連情報データベース <http://ifm.minpaku.ac.jp/japaneseCulture/> (20180524 閲覧)

1. はじめに

平成29年度(今年度)が3度目となる「ちょっとむかしの暮らし」を冠した展覧会「なつかしくあたらしい ちょっとむかしの暮らし」(以下、本展)について報告する。

本展は大東市立歴史民俗資料館(以下、当館)の学芸員提案事業の一つ、市民学芸員「道具と暮らし調べ隊」(以下、暮らし隊)とともに企画制作を行った。暮らし隊は、平成28年度(前年度)にやはり同様の展覧会を企画制作した市民学芸員「学校と博物館のよりよい関係づくり隊」を踏襲しながらも、展覧会のテーマに沿った資料の調査にやや重点を置いた活動を行った。

本稿では、市民学芸員活動やその成果となる展覧会の内容およびスクールプログラム(小学校団体見学での利用等)について、前年度を比較対象にしながら述べていきたい。

基本情報

名 称
展覧会「なつかしくあたらしい ちょっとむかしの暮らし」

会 期
平成30年1月14日(日)～3月4日(土)【47日間】

会 場
大東市立歴史民俗資料館 企画展示室

主 催
大東市立歴史民俗資料館

後 援
大東市、大東市教育委員会

企画制作
大東市立歴史民俗資料館

市民学芸員「道具と暮らし調べ隊」

関連事業
「れきみんカーニバル with 小さいこネット」

2. 12か月のあゆみ

暮らし隊の一年間の活動は表1のとおりである。上半期に資料の調査を行い、その調査をふまえて展示の制作に取り組めるよう計画した。調査対象とした資料は鍋と釜である。例年同様の展覧会で紹介している資料のうち、鍋も釜も収蔵庫に複数あるものは他になく、そのため「なぜこの鍋を展示しているのか」、「この羽釜でなければならないのか」を追求したいと考えたのが主な理由だ。さらに、前年度には、参加する市民学芸員同士がアイデアを交流しながら発展させていくというプロセスが充分ではなかったため、協同での調査を経てそのプロセスへと結びつける資料としてふさわしいと考えた。

結果的に鍋と釜を調査対象にしたのは当初の見込み通り良かった。材質や用途の違い等を深く比較調査することができたうえ、置きかまどのようにこれまで見過ごしていた関連資料や、大型の鍋や釜の背景にある家族やライフスタイルの変化について気付き展示でも言及することができた。

ただし、12か月のあゆみには課題が残った。展示制作のための調査ではなく収蔵資料の特徴に合わせた調査を行ったこと、また制作する展示を体験型に限定したこと等が挙げられる。制作する展示を体験型に限定した理由は協同での作業にこだわったことや体験型展示のコーナーを設けなかったからだが、体験型展示は展示手法の一つに過ぎないことを考慮すれば、まず自由なアイデアを出すことを第一として、そこから体験型にできるかどうか、他の手段ではどうかを検討することもできた。さらに言えば、上半期を調査、下半期を展示制作ではなく、毎月1回の活動でありメンバーもその都度替わることを踏まえて1～2回のうちにその都度調査結果を展示制作に結びつけるような計画がよりふさわしかっただろう。

なお上半期に行った座学は筆者からの話題提供

である。活動時間 2 時間のうち前半をこの座学にあて、その内容をふまえて収蔵資料の調査を行うことを基本とした。またくらし隊は原則第二土曜日を定例会としていたが、1 月は団体見学の利用申込みに合わせて日程を変更した。また展示準備や団体見学の対応、関連事業にはくらし隊以外の市民学芸員へも参加の呼びかけを行った。

3. 展覧会の内容

本展は 3 つのコーナーで構成した。コーナー名を明示してはいなかったが、「見て考えるコーナー」「さわって考える（体験）コーナー」そしてプチ特集「鍋と釜」である。展覧会の構成と展示物については表 2 のとおりである。

「見て考えるコーナー」では、企画展示室 1 で住まいの再現を踏襲しつつ、洗濯に関連する資料として張り板と伸子張りを新たに紹介した。洗濯板を使用した洗濯の体験プログラムでこの道具について解説したり、同じくシワを伸ばすアイロンと合わせて説明したりする等、効果的な展示となった。さらに企画展示室 1 から企画展示室 2 をつなぐ廊下では、前年度で紹介した夏と冬の道具をいくつかピックアップしてやはり季節に分けて展示を行い、さらに通年使われる道具として教科書にも紹介される風呂敷とアイロンを加えた。アイロンは前年度の「おうちの道具のうつりかわり」の内容を踏襲した。

廊下の後半からは体験コーナーがはじまる。「ちょっとむかしのかあさん」と題して、座敷箒とはたきを使った掃除体験、手ぬぐいで姉さんかぶりを紹介した。その隣の「ちょっとむかしのこども」では割り箸鉄砲やお手玉などで自由に遊ぶことができる。収蔵資料から竹製の水鉄砲やブリキのおもちゃを選んでアクリルケース内に展示した。どのように遊んでいたかイメージできるよういくつかのイラストも掲示した。企画段階では

くらし隊のメンバーから様々なエピソードが挙げたが、それらをうまく反映することができたとはいえない。展覧会全体を通じて昭和世代の市民学芸員の存在を生かせる展示の工夫がさらに必要だ。

調査した鍋と釜を中心にした体験「クイズ！はっけん！なべ・かま」では、壁面に問いかけの掲示があり、蓋を開けると解説がある。例えば「ごはんを炊くだけではありません。」という問いかけに対して、その前のせいろが載せてある羽釜の蓋を開けるとサツマイモ（市民学芸員が紙粘土で制作）が入っていて、蒸すという用途があったことやこどもの定番のおやつだったというエピソードがわかるようになっている。さらに火吹き竹の体験は従来通りだが、空気の伝わりが明確にわかって楽しめるよう風車を設置した。

ところで今年度の特徴は前年度では混在していた体験型展示のコーナーを設けたことである。当館では黒電話や氷冷蔵庫等の体験可能な資料も多く、スクールプログラム（団体見学）の利用時にそれらに注目が集まる傾向があるため、体験できない資料を見落としがちになっていた。そこで活動時間を半分に分けて体験コーナーと、そうではないコーナーを交代で見学できるようにした。

プチ特集「鍋と釜」は国立国会図書館のデジタルコレクションを活用した百鬼夜行絵巻とそこに登場する鍋や釜とそれに関連する道具のほか、収蔵している考古資料から煮炊きに関連する遺物を展示した。鎌倉時代の三足土器には羽がついており、さらに隣に象印マホービン株式会社より借用した最新モデルの電気炊飯器を並べることで、羽釜の構造が古来より受け継がれて最先端の技術にも採用されていることを明示した。くらし隊の調査を通してこの事実を確認して「なつかしくあたらしい」という副題をつけるに至った。羽釜のほかにも、黒電話が災害時のライフラインとして役

立ったことや湯たんぽや座敷箒等がエコの観点から再び注目されていることを各所にトピックとしてパネルで紹介した。

4. スクールプログラム

本展の見学を行った小学校第 3 学年の団体は 6 校であり、前年度 7 校から 1 校減少している。一方で本展と同様の内容の出張授業が 2 校あったことから、トータルでの変化はない。前年度と同様にクラス数に合わせた活動を行った（表 3）。

前述のとおり、クラスを 2 グループに分けて体験コーナーとそれ以外を交代で見学するよう運営した。この運営方法は概ね好評だったが、やや混乱する児童がいた。コーナーの区切りをより明確にする必要があるだろう。

体験コーナーでは、黒電話での通話体験（今年度から双方向になった）は依然として人気だったが、次いでは掃除体験に注目が集まっていた。使い古した布ではたきを手作りしたり、上から下にほこりを落としたりする暮らしの工夫がどこまで伝わったかは疑問だが、友人と一緒に取り組む事で少しでも思い出に残ったのではないだろうか。

体験コーナー以外の資料をピックアップして紹介するワークシートも作成した（前年度は自由記述のタイプのみ）（図 1）。児童同士や市民学芸員はじめスタッフとのコミュニケーションツールとして機能することを想定しており、設問内容は「自分のおうちとちがうところを 3 つ発見したら○（まる）」というようなオープンエンド形式が多い。当初は体験コーナーを含めていたが、体験しながらシートを埋めるのは児童らにとって煩雑だということがわかり中止した。また設問の言い回し等についても、利用後に毎回市民学芸員とふりかえりを行って随時変更していった。ワークシートは筆者が作成したが、くらし隊の活動のうち 1 回でその内容を検討することもできたとふりかえ

る。活動時間内に児童たちが自分の考えを発表したり、解説を行ったりできないかと検討したが活動時間が足らずほぼ断念した。下見で教員が来館した際に事前に提案して時間を設ける必要があった。ワークシートは概ね好評で事後アンケートには「ワークシートのおかげでいろいろなものが見れた」という意見が寄せられた。

なお洗濯体験を希望する学校は今年度も多かったが、当館の都合上屋外（敷地内）で行ったため移動等に時間がかかってしまい、活動時間をさらに削る要因となった。

5. むすび

今年度も多世代での来場が目立つ展覧会だった。あくまで筆者の感触でしかないが、小学校の団体見学で来場した児童が再び訪れるケースも多かったように感じている。ワークシートが良いコミュニケーションツールとなり筆者がよく顔を覚えていたり、児童が筆者をより認識できたというだけかもしれない。

担当して 2 年目の展覧会だがまだまだ完成とは言えない。市民学芸員との 12 か月の活動をうまくコーディネートできなかったのは前述の通りだが、そのほかにも課題は多く残る。造作物の修理をしたり不足しているパネルを制作するなど、課題を一つずつ市民学芸員とクリアしていくような 12 か月があってもいいだろう。

展覧会自体の評価をふりかえると、学校利用後のアンケートに「見るだけではなくさわれたり体験できたのがとても良かった」という意見があったことから体験コーナーの充実が高い満足度をもたらしたと考えている。そのほか市民学芸員について「子どもたちの質問にニコニコ笑顔で答えていてすごく良かった」という記述や、収蔵庫とそこでの解説に評価について等、当館の特徴をとらえた評価もうかがえた。当館は古民家でもなけ

れば歴史的建造物でもない。むかしのくらしを学ぶ際、実際に使用されていた生活空間に身を置くことはこのうえない方法だろうが、当館がいくら願ってもそれは叶わない。だとすれば、体験可能な実物資料があることや、立ち入り制限されることの多い収蔵庫が見学できること、市内の歴史を紹介する常設展示室があること、エレベーターがありバリアフリーへの配慮がなされているなど、当館にしかない特徴を見直すことこそ必要ではないだろうか。これまで以上に学校団体の利用を増やすなら、楽しめる展示を企画制作できる市民学芸員の存在をベースに、これらの特徴をより充実させ戦略的にPRしていくしかないだろう。

本展の企画制作はくらし隊の市民学芸員（浅野純郎氏、安達昌代氏、磯脇清美氏、磯脇晃一氏、伊藤幸美氏、加茂伸子氏、竹元智子氏、富増由起子氏、中村義之氏、野村智恵美氏、檜垣一美氏、森本長茂氏、安川和恵氏）による。また、やはり市民学芸員の栞原妙子氏、柴田 俊雄氏、為則照子氏、為則泰明氏、林田恵子氏、平尾和久氏、水永八十生氏には展示の制作や学校団体の対応など多大な協力をいただいた。そのほか象印マホービン株式会社の安藤なな緒氏をはじめ、関連事業の実施および運営にも多くの協力を賜った。末筆となるが関係した皆様に深くお礼申し上げる。



写真1：企画展示室2



写真2：廊下（夏）
写真3：廊下（冬）
写真4：廊下（風呂敷・アイロン）



表1：平成29年度「道具とくらし調べ隊」活動記録

年	月 日	内 容
平成29年	4月15日	第1回 自己紹介、過去の展示会の紹介、収蔵資料調査（鍋と釜）
	5月20日	第2回 座学（電気炊飯器や羽釜の材質とサイズ等）、収蔵資料調査（釜）
	6月17日	第3回 座学（炊飯の歴史等、収蔵資料調査（鍋）
	7月15日	第4回 座学（百鬼夜行絵巻や鍋の材質と用途等）、河内の食べものの調査
	8月19日	第5回 座学（スクールプログラムや体験型展示の例等）
	9月16日	第6回 見学会 キッズプラザ大阪（体験型展示のコンセプトや工夫等について）
	10月14日	第7回 体験型展示のアイデアを出し合う
	11月18日	第8回 展示内容やスケジュールを相談
	12月	展示準備
	12月16日	第9回 展示作業
平成30年	1月6～9日	第10回 完成した展示の確認、学校対応の打ち合せ
	2月18日～	団体見学対応（随時）
	2月14日	関連事業準備
	2月17日	第11回 関連事業「れきみんカーニバル with 小さいとこネット」
	3月17日	第12回 今年度のふりかえり



表2：展覧会の構成と展示物

企画展示室1	
(屋外)	(棚)
伸子	ざる
木綿織物	鍋
張り板	漏斗
洗濯板	飯かご
たらい	せいろ
井戸一式(製作) ★	鯉節削器
バケツ	手ぬぐい
竹ぼうき(製作)	(居間)
ちりとり(製作)	ラジオ
(かまど周辺)	茶筆筥
火吹き竹(製作)	針箱
しゃもじ類入れ (製作)	買い物かご
竹へら	飯ふこ
かまど一式(製作)	おひつ
七輪	しゃもじ
かご	キセル
火消しつぼ	煙草盆
火ばさみ	柱時計
十能	ちゃぶ台
鍋	茶碗・汁碗ほか食器類
羽釜	やかん
(板の間)	ふすま
すのこ	筆筥
まな板	ぬいぐるみほか玩具類
すり鉢	鏡台
すりこぎ	座敷机
(流し周辺)	教科書ほか書籍類
手桶	そろばん
水がめ	火鉢
ひしゃく	火箸
流し (製作)	柳行李
すのこ	衣桁
漬物瓶	帽子
一升瓶	木綿織物
ざる	

写真5：企画展示室1

廊下	
(夏)	(冬)
手桶	湯たんぼ(陶器)
ひしゃく	湯たんぼ(ブリキ)
ハエとり器	豆炭あんか
蚊取り線香	やぐらごたつ
蚊取り線香立て	こたつ
ハエたたき	安全こたつ
すだれ	火鉢
扇風機	やかん
風鈴(南部鉄)	火箸
団扇	五徳
扇子	(風呂敷)
氷かき器	風呂敷
たらい	教科書ほか書籍類
	(アイロン)
	炭火アイロン
	火のし
	こて
	(電話)
	ダイヤル式電話(緑) ★
	壁掛け電話機
	ダイヤル式電話(黒) ★

企画展示室2	
ちよとむかしのこども	
割箸鉄砲(製作)ほか玩具類 ★	
ミニカーほか玩具類	
ちよとむかしのかあさん	
はえたたき(製作) ★	
手ぬぐい ★	
ぼうき ★	
はたき(製作)★	
電灯	
氷冷蔵庫 ★	
米つき道具 ★	
クイズ！はっけん！なべ・かま	
保温式炊飯器 ★	
せいろ ★	
羽釜 ★	
アルミ鍋 ★	
羽釜	
置きかまど ★	
鍋 ★	
置きかまど ★	
火吹き竹(製作) ★	
プチ特集なべとかま	
「道具が妖怪になっちゃった」	
鍋	
五徳	
火吹き竹	
おたま	
しゃもじ	
羽釜	
ふた	
鍋つかみ	
すりこぎ	
プチ特集なべとかま	
「煮て炊いて食べてきた」	
古墳時代の土器	
鎌倉時代の土器	
最新の電気炊飯器 (提供：象印マホービン株式会社)	

表3：展覧会開催中のスクールプログラムの利用状況

日時				学校名	学年	クラス数	滞在時間	活動あたりの時間(分)	洗濯体験	企画展示室	ワークシート	収蔵庫	常設展示室	むかし写真
1月	18日	木	午前	A小学校	3	2	110	50	A	B	資料館作成	B	B	
1月	25日	木	午前	B小学校	3	2	90	40	A	B	資料館作成			
1月	26日	金	午前	C小学校	3	2	90	40	A	B	資料館作成		B	
2月	2日	金	午前	D小学校	3	3	120	35	A	B	資料館作成	C	C	
2月	7日、22日	水	午前	E小学校	3	3	140	40		A	資料館作成	C	B	B
2月	19日	月	午前	F小学校	3	2	90	40	(出張授業)	A	資料館作成	B	B	
集計				6校			約107分(平均)	約41分(平均)	5件		7件	4件	5件	1件

写真6：プチ特集「なべとかま」



写真9：手ぬぐいをかぶって掃除体験する様子



写真 7：せいろのなかのさつまいも



写真10：置きかまどの火吹き竹体験と鍋蓋を開ける様子

図1：「見て考える」コーナーのワークシート

大東市立歴史民俗資料館 平成29年度冬季展覧会「なつかしくあたらしい ちょっとむかしのくらし」 ワークシート

ビンゴでまわろう！ ちょっとむかしのくらし

ぜんぶできたら、
展示室にかけられている
ほかの体験やクイズを
さがしにいこう！

● ○をつけたり、見つけたものの名前をかこう。
● 答えが気になったら、資料館の人にきいてね。

①～④はわんちゃんのお部屋だよ	① 自分のおうちとちがうところを3つ発見したら○ ☐	② 井戸で水をくんでみよう。2回くみあげたら○ ☐	③ 井戸でくんだ水を家にためておく道具を見つけたら○ ☐ ● その道具で運ぶ道具は？
	④ 汚れた服を洗う道具を見つけたら○ ☐	⑤ 使ってみたい夏の道具は？ ● 1つえらんで書いてみよう	⑥ 使ってみたい冬の道具は？ ● 1つえらんで書いてみよう
	⑦ 「安全ごたつ」がなくて安全かわかったら○ ☐ ● 使い方を覚えてもらおう	⑧ 教科書を包んでいた道具を見つけたら○ ☐	⑨ 服のしわをのばす道具を3つさがしたら○ ☐ ● 使い方のちがいをくらべよう

⑤～⑨はふくちゃんのお部屋だよ

● 思ったことメモ

小学校 _____ ねん _____ ぐみ _____ なまえ _____

写真8：ワークシートに取り組む様子



親番号	子番号	名称	員数	形状	寸法 (縦)	寸法 (横)	作・著・編者・書写 者・寄進者等	作・写・刊年代	西暦	備考
龍1	0	文書箱			—	—	—	—	—	—
龍1	1	勘定簿	1冊	横帳	12.0	33.0	若中	明治25年10月	18921099	※虫損・汚れ・破れあり
龍1	2	藁集付控帖	1冊	横帳	12.5	34.5	龍間青年会	明治41年12月14日	19081214	—
龍1	3	藁寄帳	1冊	横帳	11.7	32.4	龍青年会	明治43年12月14日	19101214	※虫損・破れあり
龍1	4	会計簿	1冊	横帳	12.5	33.2	龍間青年会	大正13年10月	19241099	※裏角破れあり
龍1	5	藁寄帳	1冊	横帳	12.3	34.6	龍若中	明治31年12月18日	18981218	※左下破損・虫損
龍1	6	諸事入用簿	1冊	横帳	12.5	34.0	龍間村若中	明治3年	18709999	※表紙一部破損・虫損・汚れあり
龍1	7	御花受取簿	1冊	横帳	12.5	34.4	龍間若連中	明治14年10月27日	18811027	※汚れあり
龍1	8	御花帳	1冊	横帳	12.2	32.0	龍間青年会	大正4年10月21日	19151021	※破損あり ※虫損あり
龍1	9	花帳	1冊	横帳	12.3	33.5	龍間青年会	大正11年10月	19221099	※破損あり ※虫損あり
龍1	10	立太子礼奉紀念につき花帳及び青年会名簿	1冊	横帳	12.2	32.5	龍青年会	大正5年11月3日	19161103	※虫損あり
龍1	11	楽車に付入用記	1冊	竖帳	25.0	17.0	若中・世話人	明治13年10月	18801099	—
龍1	12	地車幕銀寄帳	1冊	横帳	12.3	34.2	龍間村若連中	文久3年10月20日	18631020	—
龍1	13	地車幕銀寄帳	1冊	横帳	12.7	35.0	龍間村若連中	元治元年10月20日	18641020	—
龍1	14	地車入用帳	1冊	横帳	12.3	34.0	龍間村	明治16年4月	18830499	※裏表紙虫損あり
龍1	15	祭文寄付帳	1冊	横帳	12.3	33.5	竜間青年会	明治35年10月21日	19021021	※破損あり
龍1	16	立太子礼奉祝につき名簿	1冊	横帳	12.5	33.0	龍間青年会中	大正5年11月3日	19161103	—
龍1	17	青年会忘備録	1冊	横帳	12.5	34.0	—	大正元年10月	19121099	※シミ・汚れあり
龍1	18	太鼓並びに鐘賣求帳	1冊	横帳	12.1	33.8	龍間村若連中	明治20年1月	18870199	—
龍1	19	花帳	1冊	横帳	12.0	33.5	龍間青年会	大正13年10月	19241099	※破れあり
龍1	20	持車修復に付若中一統人足帳	1冊	横帳	12.3	32.5	若中総代	明治13年1月	18800199	—
龍1	21	楽車就人足帳	1冊	横帳	12.5	33.0	龍間村若中	明治15年10月31日	18821031	※裏面に「龍間村若中」の記載あり
龍1	22	青年会会計簿	1冊	横帳	12.7	34.0	—	大正元年10月	19121099	—
龍1	23	連名簿	1冊	横帳	12.0	33.3	龍間青年会	大正14年10月	19251099	—
龍1	24	連名帳	1冊	横帳	12.3	33.0	龍間青年會	大正15年10月	19261099	—
龍1	25	金寄帳	1冊	横帳	12.5	34.0	若中・世話人中	明治13年11月30日	18801130	※破損あり ※付箋あり
龍1	26	会計帳	1冊	横帳	12.2	33.0	龍間青年會	大正15年10月	19261099	—
龍1	27	財木寄進帳	1冊	横帳	12.5	34.5	若連中	弘化4年正月	18470199	※綴じ紐破損あり
龍1	28	藁寄	1冊	横帳	12.5	34.2	竜間青年会	大正2年12月11日	19131211	—
龍1	29	花帳	1冊	横帳	12.3	33.0	龍間青年會	大正15年10月	19261099	—
龍1	30	藁寄覚帳	1冊	横帳	12.5	34.0	若中	明治26年1月3日	18930103	—
龍1	31	花帳	1冊	横帳	12.5	33.5	龍間青年会	大正12年10月	19231099	※表紙汚れあり
龍1	32	連名及び申送帳	1冊	横帳	12.3	33.5	龍間青年会	大正11年10月	19221099	※虫損あり ※未撮影
龍1	33	連名及び花帳	1冊	横帳	12.5	34.0	龍間青年会	大正7年10月	19181099	※汚れあり
龍1	34	連名簿	1冊	横帳	12.5	33.0	龍間青年會	大正8年10月23日	19191023	※破損あり
龍1	35	御花集金帳	1冊	横帳	12.4	33.5	龍間青年會	大正11年10月22日	19221022	※破損あり
龍1	36	会計簿	1冊	横帳	12.2	33.4	龍間青年會	大正15年10月	19261099	—
龍1	37	会計及び花帳	1冊	横帳	12.0	33.0	龍間青年會	大正9年10月	19201099	※破損あり
龍1	38	藁寄帳	1冊	横帳	12.0	32.0	竜間青年會	大正3年12月14日	19141214	※右上部に虫損あり ※破損あり
龍1	39	連名帳	1冊	横帳	12.4	34.3	—	大正元年	19129999	※虫損・破損あり
龍1	40	花帳	1冊	横帳	12.2	32.6	龍間青年会	大正1〇年10月	99991099	※虫損・破損あり
龍1	41	太鼓張替寄進帳	1冊	竖帳	24.3	17.5	龍間方若連中	文久元年9月	18610999	※虫損・汚れあり
龍1	42	買物帳	1冊	横帳	14.0	25.0	龍青年會	大正7年10月18日	19181018	※虫損あり
龍1	43	入費勘定帳	1冊	竖帳	25.0	17.3	若中・世話人	明治14年2月14日	18810214	—
龍1	44	買物帳	1冊	横帳	12.4	17.0	龍間青年會	昭和4年10月	19291099	—
龍1	45	楽車蔵新築に付き入費計算簿	1冊	竖帳	24.2	16.8	龍間村世話人・若連中	明治15年10月12日	18821012	※表紙によごれあり ※裏表紙破れ・虫損あり
龍1	46	若中花被下集帳	1冊	横帳	12.4	34.0	—	10月27日	99991027	※虫損あり
龍1	47	諸入費勘定帳	1冊	横帳	12.5	34.4	北河内郡四條村大字龍間方若中所有	明治29年12月22日	18961222	※破損
龍1	48	楽車附不足金寄帳	1冊	横帳	13.0	32.2	若中	明治24年12月上旬	18911299	—
龍1	49	花帳	1冊	横帳	12.0	32.6	龍間青年會	明治40年10月	19071099	※破れ有り
龍1	50	御花帳	1冊	横帳	12.5	33.2	竜間青年會	明治42年10月22日	19091022	—
龍1	51	青年会連名帳	1冊	横帳	12.0	32.5	—	明治41年10月22日	19081022	—
龍1	52	諸入費扣帳	1冊	横帳	12.5	34.4	龍青年會	明治35年4月吉日	19020499	—
龍1	53	諸買物入費帳	1冊	横帳	12.4	34.0	龍間若中	明治25年12月	18921299	※上部虫喰いあり
龍1	54	連名帖	1冊	横帳	11.9	32.5	龍間青年中	明治39年10月22日	19061022	—
龍1	55	金銭書上帖	1冊	横帳	12.3	32.0	—	—	—	※表紙無
龍1	56	連名簿	1冊	横帳	12.1	32.3	龍間青年会	大正12年10月	19231099	※下に虫喰い ※後ろ破れあり
龍1	57	地車金寄扣帳	1冊	横帳	12.2	34.3	若中・惣代谷塾口次郎	明治12年	18799999	※虫喰いあり ※後ろ破れあり ※貼り付け訂正あり(2箇所3枚)
龍1	58	新地車二付入用帳	1冊	横帳	12.5	23.0	若中・世話人中	明治13年10月	18801099	—
龍1	59	地車蔵に付入用記	1冊	横帳	12.5	34.5	龍間村若中連中	明治16年12月	18831299	※虫くい ※破れ
龍1	60	連名帳	1冊	横帳	12.4	34.2	龍間青年會中	明治42年10月23日	19091023	—
龍1	61	会計並二花帳	1冊	横帳	12.5	34.0	龍間青年会	大正10年10月	19211099	—
龍1	62	会計簿	1冊	横帳	12.3	33.4	龍間青年会	大正12年10月	192310.99	※虫損
龍1	63	藁附扣帖	1冊	横帳	12.0	34.0	龍間青年	明治39年12月	19061299	※注損 ※汚れ ※破損
龍1	64	若中連名帳	1冊	横帳	12.5	35.0	龍間方惣代	明治16年10月22日	18831022	※裏の上部破損 ※虫損
龍1	65	連名帳	1冊	横帳	12.0	32.3	—	明治44年10月	19111099	※破損あり ※虫損
龍1	66	諸入用勘定渡し帳	1冊	横帳	12.8	34.3	龍間邨 若中惣代 世話人諸中	明治14年3月15日	18810315	※虫損 ※こげ跡あり
龍1	67	五穀野菜寄進帳	1冊	横帳	12.5	34.5	龍間若中惣(ママ)代	明治13年10月	18801099	※虫損
龍1	68	藁附扣帖	1冊	横帳	11.8	32.5	龍間青年会	明治37年12月	19041299	※虫損
龍1	69	諸入費勘定帳	1冊	横帳	12.5	34.0	四條村大字龍間若中連中	明治32年10月22日	18991022	※虫損 ※破損
龍1	70	藁寄覚帳	1冊	横帳	12.3	33.5	若中	明治26年1月3日	18930103	※虫損
龍1	71	若中惣代廻簿	1冊	横帳	12.5	33.7	—	明治9年1月	18760199	—
龍1	72	藁集簿	1冊	横帳	12.5	33.7	龍間方 若中 吉造	明治14年2月7日	18810207	※虫くいあり(欠損)
龍1	73	獅子舞建立帳	1冊	横帳	12.4	34.4	龍間村 若連中	文政13年11月	18301199	※3丁目破損あり
龍1	74	御花帳	1冊	横帳	12.5	34.0	龍間青年會	大正6年10月	19171099	※虫くい

はじめに

大東市立歴史民俗資料館（以下、資料館）では、二〇一五年から三年間、文化庁文化芸術振興補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）を受け、「だんじりを活かした地域共働事業」を実施し、二〇一七年には「進化系アーカイブと旅するミュージアム事業」を実施した^①。その際に、二〇一六年十一月に大東市龍間・経寺地区のだんじりが解体され、彫物と共に、関連する幕・太鼓・古文書を資料館で預かり、資料館の市民学芸員と共にそれぞれ調査を行った。

本稿では、預かった古文書群の目録を公開すると共に、こういった古文書があるのか、簡単であるが、紹介したい。

一、文書の調査作業について

今回、この文書群の調査を行うにあたり、当館の市民学芸員と共に調査を行った。調査に至る経緯について、詳細は別稿^②に記しているが、市民学芸員の内、古文書に興味を持つ方々が集まり、「古文書探し隊」を結成して調査を行った。古文書自体触れたことがなく、調査方法もわからない方が多かったため、筆者が作成した調査カードの記入凡例を作成し、それをもとに説明し、基本二人一組のチームを組んで、カードの記入を行った。カードの作成が終了した時点で、資料館で使用しているエクセルで作成したフォームにカードの情報を入力していき、目録を完成させた。

現在、「古文書探し隊」において史料の翻刻を進めており、二〇一八年五月時点で、七十四点中四十点が翻刻を終えている。今後、確認と校正作業を経て、史料の写真と共にアーカイブ化され、インターネット上での公開を目指している。

二、文書群について

今回、紹介する文書群について、少し触れておく。

今回の調査で、文書群は、点数が全部で七十四点確認でき、江戸末から昭和初期にかけて作成された龍間・経寺地区のだんじりに関わる史料であることがわかった。木箱に収められた文書は、七十四点の内四点が縦帳で、残りは全て横帳である。また、文書が作成された時期別に分けると、江戸期が五点、明治期が三十八点、大正期が二十八点、昭和期が一点、年代不明が二点あり、史料のほ

とんどが明治・大正期に作成されたものであると確認が出来た。

文書群の内容としては別稿^③でも触れているので、詳しくは記さないが、「龍間青年会」の名簿・会計簿が多く、その他には祭礼時に集めた花代の帳簿、「藁寄帳」、昭和天皇の立太子の礼が執り行われた大正五年（一九一六）十一月三日に龍間村でもお祝いがあったらしく、それに関連する花代の帳簿や参加した青年会の名簿（龍1・10、11）などが現存している。

これに加えて、だんじりに関わる史料も残されており、文久三年（一八六三）と翌年の元治元年に作成された幕に関する「銀寄帳」（龍1・12、13）、明治十三年（一八八〇）の年紀が入った「入用帳」（龍1・14）、明治十五年（一八八二）に作成されただんじり庫に関する帳簿（龍1・45）などが残されており、龍間青年会の歴史、だんじりの歴史といった、江戸末期から昭和初期にかけての龍間・経寺地区の様子を知る上で貴重な文書群となっている。

おわりに

現在、資料館において、大東市内におけるだんじり関係古文書の所蔵を確認している保存会は四ヶ所であるが、この龍間・経寺地区の目録が公開されたことをきっかけに、今後資料館へ、保存会からだんじりに関する文書群の情報が寄せられるきっかけとなれば、幸いである。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、龍間区長 石橋博壽氏、ならびに「古文書探し隊」のみなさまにご協力頂きました。記して、感謝申し上げます。

「古文書探し隊」（二〇一七年度登録者、五十音順、敬称略）

氏原稔夫、大藪庸子、岡島怜子、加茂伸子、北野武司、栗山登志子、黒川喜和子、田里孝子、為則照子、為則泰明、中下志津子、中村義之、林田恵子、檜垣一美、平尾和久、平尾寿美子、前田喜久子、前田幸子、水永八十生、和久田隆夫

（1）事業の詳細な内容については『だんじりを活かした地域共働事業報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（だんじりを活かした地域共働事業実行委員会編、二〇一五・一六・一七）、『進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 平成29年度事業報告書』（進化系アーカイブと旅するミュージアム事業実行委員会編、二〇一八）を参照されたい

（2）前掲註1拙稿「龍間・経寺地区のだんじりにまつわる文字史料」（『だんじりを活かした地域共働事業報告書Ⅲ』第三部第一章）

（3）前掲註1拙稿「だんじりの文献史料の整理とアーカイブ化」（『進化系アーカイブと旅するミュージアム事業 平成29年度事業報告』第一部第二章）

